

ふるさとを語れる 伊佐っ子の育成

養父市立伊佐小学校 校長 米田 規子
主幹教諭 片芝 教子

1. はじめに

本校は、NIE 実践指定校となり2年目である。教師自身が考えの幅・活動の幅をひろげ、活用できる方法を研究し、子どもたちの活動を深めたいという昨年度の課題をもとに、社会とのつながりをさらに深めることをめざして全校生・全職員で実践を積んだ。

2. 学校としての取組

<学校全体での推進目標>

- ① 新聞に慣れ親しむ。
- ② 社会とのつながりを深める。
- ③ 情報を整理し読み取る力をつけ、言語力や表現力を伸ばす。

<継続したこと>

- ①夏休み・全校生による新聞作りとその交流
- ②地元のことを扱った記事やコウノトリ関連記事を継続して紹介
- ③各学年の実践発表会
- ④6年生による記事紹介
- ⑤NIE 実践についての職員研修



<コウノトリ関連記事を時系列で掲示>



<夏休み新聞を読み合い感想・意見を交流>

<昨年度の活動をもとに改善したこと>

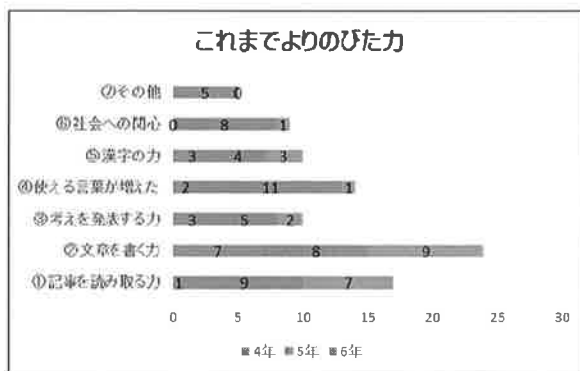
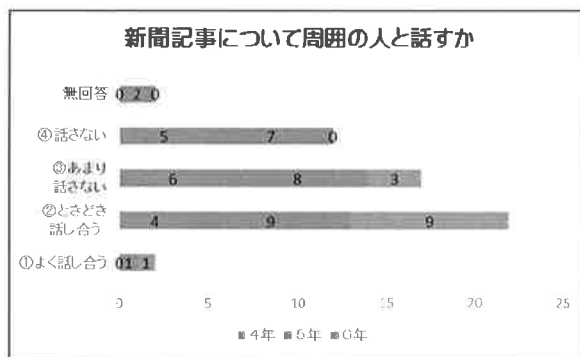
① 新聞設置場所の検討

子どもたちの身近に、そして、新聞をゆっくりとひろげて読むことができるように、設置場所を学年教室横（ワークスペース）へ移し、より自由な閲覧ができるようにした。

② NIE アンケートの実施

高学年を対象にNIE活動に関するアンケートを実施した。

アンケート結果から新聞記事について周囲の人たちとの会話が増えていることもわかる。また、継続した活動で「記事を読みとる力」が伸びたと感じている児童が多いと予想していたが、「文章を書く力」や「使える言葉が増えたと感じる」児童が多く、子どもたち自身の言語や書いて伝えることへの意識の高まりが感じられた。



(2016年11月・対象：4～6年児童55名)

③ 委員会活動で新聞記事を共有

本校ではNIE活動の推進役を図書委員会が担っている。本年度は中でも、新聞記事クイズとして、記事を読んで答える問題を作り、掲示を続けた。クイズは低学年向け問題・高学年向け問題として考えたこともあり、子どもたちは熱心に記事を読んでクイズに答え、解答部分をめくっては、歓声をあげていた。



3. 各学年の実践

(1) 1年生の取組

昨年と同様、1年生が理解できるような記事や写真を教師が読み聞かせるところから始めた。世の中の大きなニュースやスポーツ欄などのカラー写



<カタカナの数を調べたよ>

真を見せたり、造形あそびや節分の豆まきの豆作りなどで新聞紙を使用したりしたことで、新聞への親しみが増すことができた。

本年度は、新聞の中にあるカタカナの数を調べたところ、あまりのカタカナの多さに子どもたちも驚き、学年発表で全校生へ伝えることができた。「読む」ことにとらわれず、様々な形で新聞に触れることで、自分から新聞を見ようとしたり、家庭での自主学習でカタカナ調べをしたりする児童が増えてきた。掲載されている文章の理解は難しくても、新聞



<豆まきの豆は新聞紙で>

(2) 2年生の取組

月に1回発行される新聞2ページ分の「神戸新聞・写真ニュース」の新聞の中で、子どもたち自身が気になった写真・記事を紹介する活動を続けた。友だちが紹介してくれることで、自分もその記事を読んでみようとしていた。数社から発行される「子ども新聞」は子どもの興味をひくような記事や写真、クイズや漫画が載っており「本よりおもしろい!」という声も上がっていた。



図工科「しんぶんとなかよし」 <思う存分、新聞紙を使ったよ>

では新聞を惜しげもなく使うことができ、全身を使って造形あそびを楽しむことができた。新聞紙を使い恐竜を作ったり、広げて並べたり、ちぎって遊んだり、新聞紙がいろいろに変化していくことを体感でき、創造力を育てることとなった。



<新聞紙で魔法使いに変身!>

(3) 3年生の取組

① 投書を読む

同じ年代の児童が投稿した記事を読んで、感想を書く活動を続けた。同じ年代の児童が書いているということ親しみもわき、また理解もしやすく、積極的に取り組んでいた。



② 「しつもんドラエもん」の活用

朝日新聞に掲載されている「しつもんドラエもん」を切り抜き、クイズを出し合った。3年生にも読み解きしやすい文章及び量であり、毎回、楽しみながら新聞をひらき、クイズの答えを探しながら、読み進めることができていた。

③朝のスピーチを新聞記事から

3学期には、子ども新聞の記事を題材にして、朝の会で日直スピーチを行った。昨年から新聞が身近にある環境で生活している子どもたちであり、様々な種類の記事を選び、発表することができた。子ども新聞の記事を読むことに対する抵抗が少なくなり、毎日、本を読んでいる感覚に近づいている様子を感じた1年であった。

(4) 4年生の取組

① 国語科「新聞を作ろう」と合わせて

「新聞をつくろう」(光村4年)の単元で学習した新聞の特徴を生かし、調べたことを新聞にした。また、これを国語科でとどめておくことなく、社会科や理科にも取り入れ、社会科では社会見学後の新聞作り、理科では実験を通した理科新聞作りを行った。新聞形式でまとめるためには、子どもたちも学習したことを整理し、見通しをもつことが必要となる。学んだことをまとめ、文章(記事)にし、見出しをつけ、構成したものに貼り付けていく活動は自己の学習を深めていく上でも意義深いものであった。



<理科学習をまとめた理科新聞>

②算数科「1㎡新聞づくり」

算数科で1㎡を学習する際、新聞を切り貼りして実際に1㎡の大きさを作り、その大きさを体感した。新聞を切り貼りしていると「意外に



<1㎡って広いなあ>

大きい！」の声があがり4年生にとって体感できることの大切さを感じた。

(5) 5年生の取組

①社会科・総合的な学習の時間での活用

伊佐小学校3・5年生で取り組んでいる「米作り」について活動を進めていく中で、「米作り新聞」を作った。今回は個人でまとめていく形式をとったが、昨年からの経験もあり、新聞を作ることへの抵抗もなく、こつこつとまとめることができた。NIE活動が2年目ということもあり、子どもたちは慣れた様子で、「先生、新聞にこの間の授業で先生が言われたことが載っていました。」など話しかけてくることも多かった。NIE活動を続けてきたことで新聞が、学習と毎日の生活を結びつける良いツールとなっていることを実感した。



<私たちの新聞、見てください！>

②新聞記者の声をきく

本年度は読売新聞社豊岡支局・松田聡さんをお招きし、記事の書き方や新聞ができるまで、新聞記者として心がけておられることなど現場のことを聞かせていただいた。松田さんは伊佐小学校全体で取り組んでいる「コウノトリ」についてのことも長年に渡って取材しておられ、コウノトリが舞う但馬への熱い思いもお聞きすることができた。



<現場の声に耳を傾ける>

③朝読書での活用。記事を切り抜く

国語科「新聞を読もう」(光村5年)の学習後、自分の関心がある内容の記事を切り抜き、ワーク

シートに貼り付け、感想を書いた。自分が好きなスポーツの関連記事や地元・但馬の記事を選んでいる児童が多かった。

(6) 6年生の取組

①正平調の書き写し

昨年度の6年生の実践を受け継ぎ、神戸新聞に毎日掲載されている正平調を書き写した。今年の6年生にとってもなかなか時間を必要とする活動ではあったが、クラス内で学級や家庭の話だけでなく、みんなで社会のことを話題にできたこと、そして優れた文章の書きぶりにふれることができたことは大きな成果であった。活字をじっくり読む・探す・比べる・読み取る力がついてきている。



<6年生が続けた正平調書き写し>

②記者派遣

5年生と共に読売新聞・松田記者の話を聞いた。新聞記者の話を聞くのは2回目になる子どもたちだが、やはり生の声を聞けることに対する関心は高く、集中して話を聞いていた。今年は、自分たちの身近なコウノトリの話が聞けたこと、私たちにできるだけ新鮮な内容を伝えるために夜中まで原稿を書かれていることなどを知り、当たり前のように手元に新聞が届くことの裏にある努力の一端に触れることができた。

③平和学習

オバマ前大統領の広島訪問は本年度の大きな話題であった。ちょうどその時期に修学旅行で広島を訪問していたこともあり、新聞各紙で大きく報じられたこの記事を「平和学習」を進める教材として活用することができた。

③ 1～5年生への記事紹介

本年度も6年生が選んだ新聞記事を1～5年生へ紹介に行った。6年生にとっては、記事を選び担当学年が理解できるように話さなくてはならず、記事を丁寧に読んで選んでいた。また質問も受けるので、記事に対する読み込みも必要である。6年生自身にとって読む力・説明する力をつけるよい機会となった。



<各学年へ新聞記事を紹介>

4. おわりに

様々な情報があふれる現在。本校の子どもたちはテレビやインターネットから情報を得ることが多いようだ。(児童アンケートより) 養父市では毎月第2・第4水曜日に小中学校共通で「ノーマディア・読書」に取り組んでいる。本校ではこの日の読書活動に新聞活用も取り入れた。

実践2年目も年度始めに「学年部のめあて」を決めた。本年度は、読む・話す聞く・書くことに加え、発信することにも重点を置いたため、各学年が自分たちの取組を集会や掲示板で発信しながらNIE活動を続けた1年となった。

「新聞記事は立ち止まって読み、じっくり考える機会を与えてくれる。」本年度の実践発表会で語られた言葉通り、新聞を前に子どもたちは立ち止まり、感想をもち、話をしていた。今後も教師自身が新聞を通して社会とつながりを広げていくことが、子どもたちの「未来への扉を開く鍵」となると信じ、取組を続けたい。



<全校生で取り組んだ夏休み新聞>



<新聞を読んで答えよう！>